様式２

北海道美唄尚栄高等学校の行動計画（アクションプラン）　Part２

全国の農業高校の行動計画		学校において平成２７年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「５つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
Ⅰ　持続可能な循環型社会の実現に向けて農業教育と環境教育を推進し、地域の先進的なエコロジカルアグリハイスクールを目指します。	①環境保全型農業を推進する農業教育を実践します。	(1)グリストラップの負担を少なくし、残渣が流れるのをできるだけ防ぐ。	(1)排水ネットを使用し残渣流出の軽減に務めた	(1)市内の新しいゴミ分別制度に対応する。	３
	②自然環境保全などの環境教育を推進します。	(1)農業クラブ活動をとおして、地元の農業を学び、食品や原材料生産に携わる方々と交流することで、将来的な啓蒙を促す。	(1)外部講師による講話、視察研修、実際に農地に行っての現場実習を全クラブ員に行った。	(1)定期的に管理をするような栽培の実施が必要である。	３
Ⅱ　農業に関する基本的な技術や経営能力、倫理観をもった将来のスペシャリストを育成します。	③農業の担い手を育成します。	(1)製造マニュアル、及び機器管理システムの見直しを行い、食の安全・安心教育に活動する。	(1)製造記録簿の詳細化を実施し、情報の共有化を行う事ができた。	(1)生徒に対しても製造記録の重要性を理解させ、個人の記録簿に生きるように工夫する。	３
	④食の安全・安心教育を徹底します。	(1)美唄の基幹産業、稲作と畑作の生産物加工の研究指導に努め普及活動の推進をする。	(1)プロジェクト活動において地元農産物の加工研究を積極的に実施できた。	(1)研究を継続的に行い、商品化、商品としての運用について検討を行う。	３
Ⅲ　地域貢献、地域連携を推進し、地域農業の発展に努めます。	⑤地産地消を推進するとともに、地域の伝承文化の継承に努めます。	(1)美唄市役所や高等教育機関・企業と連携し製品開発や商品のPRに務める。	(1)アスパラ副産物、羊乳の研究など地元の農産物を活用した研究を行った。	(1)長期の計画を立て、研究活動の目的、目標を明確化させる。	３
	⑥産業界や大学等との連携を強化します。	(1)全校生徒に対して農業クラブ活動をPRする	(1)空知総合振興局、美唄市教育委員会、JAびばいなどど連携し、その内容をまとめ、生徒にPRした。	(1)関係強化に努め、本校生徒にも１次産業の重要性を伝えていく	３
Ⅳ　農業教育の普及、奨励、支援を行います。	⑦すべての児童・生徒に対して、農業教育の普及活動を実践します。	(1)インターネット及び農業クラブ通信、販売会で広報活動を実施する。	(1)新聞やホームページ、販売会でのPR看板などを活用し広報活動を行った。	(1)生徒自らが取り組む農業クラブ通信の内容について改善が必要である。	３
	⑧すべての人に対して、農業に対する関心と理解が深まる活動を行います。	(1)学校間連携、特に小学校との交流活動をとおして、自然科学の原理を学習させる。	(1)食育活動をとおして農作業に実際に関わる機会を設けた。	(1)さらに食育活動を活性化させ、生産、加工、流通のつながりを学ぶ機会を設定する。	３
Ⅴ　東日本大震災からの農業の復興を支援し、自然災害による被害の軽減に努める人材を育成します。	⑨自然災害による被害の軽減や自然エネルギーの利用についての学習を推進します。	(1)地元をフィールドとした農業体験をとおして自然との関わりを考える機会を設ける。	(1)多くの農業関係者、教育機関にご協力いただき、農業、環境を考える機会を設定できた。	(1)活動を継続していき、効果的な時期、方法を模索する。	３
	⑩東日本大震災で被災した農業高校・生徒を支援します。	(1)学校として被災した農業高校・生徒と関わり、支援できる方法を模索する。	(1)例年通りの活動で新しい連携の形は生まれなかった。	(1)専門教科の食品製造を通してさらに現地の生徒と連携を図れる方法を模索したい。	２